

2025年 活動実績

2026年6月12日

一般社団法人 EMOBIA (エモビア)

目次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション・地域共創の取り組み
2. 取り組み背景：国内外の動向 米国輸入車追加関税25%
①ITSの大変革 ②世界のEV急拡大? ③自動運転の動向 ④自動車産業13の変化?
3. 2025年 取り組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2025年度 課題・ニーズへの対策検討・取り組み活動
各部会活動 概況
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
第1回、第2回「久留米地域ITSモビリティ研究会」立ち上げに向けた勉強会
第1回「久留米地域ITSモビリティ研究会」
6. 2025年度 取り組み体制
7. 活動実績 2025年度活動実績表

2024年度

2025年度 活動実績表



| 定例会議 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|------|---|------------|-------------------|------------------------|-----------|------------|----------------|-----------|------------|--------------------------|------------|--------------------------|--|
| | 11. 理事会 部会 | 15. 理事会 部会 | 13. 理事会 部会 ▲ 社員総会 | 11. 理事会 部会 | 8. 理事会 部会 | 12. 理事会 部会 | 9. 理事会 部会 | 7. 理事会 部会 | 12. 理事会 部会 | 16. 理事会 部会 | 13. 理事会 部会 | 13. 理事会 部会 | |
| | 理事会(毎月)・事業戦略企画部会・次世代モビリティ・マッピング推進部会 | | | | | | | | | | | | |
| | 16親睦交流コンペ 九州アカデミーITS モビリティ研究会 3月~大学連携AC部会準備 | | | 九州アカデミーITS モビリティ研究会 | | | 10 親睦交流 コンペ | | | 九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲ | | 九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲ | |
| | 「自動運転・ライドシェア・他」会員企業セミナー勉強会(年2回実施,自治体含む) | | | | | | | | | | | | |
| 勉強会 | EV・自動運転技術勉強会 | | | | | | | | | | | | |
| 事業推進 | 九州アカデミーITSモビリティ研究会 自動運化検討 2026年2月 熊本学園大学公開勉強会 「のーと上熊本」の自動運転化に向けた協働のあり方 | | | | | | | | | | | | |
| | 事業戦略企画部会 ▲ ホームページ対策検討 ・CASE・MaaS ビジネスモデル付加価値検討 公共交通自治体課題・特定地区検討 | | | | | | | | | | | | |
| | 令和7年度活動計画について 活動計画案項目 ①九州アカデミーITSモビリティ研究会の継続と拡大 対象自治体:久留米市の次世代モビリティ事業化に向けた研究会 - 国プロにチャレンジ、EMoBIAとの強力なパートナーシップ ②のーと上熊本のグリスロモシティ実証 自動運転化への展開取り組み ③福岡県連携事業(福岡モビリティショー2024) ④自動運転システム社会実装化の検討・交流会実施 ⑤会員交流会(各社のリレーションとのコラボ推進) ・EMoBIAカオスマップの強化と取り組み展開 ⑥ITSジャパンとの連携事業強化 ⑦重点行政地域 福岡県地区自治体(久留米市、柳川市、宗像市、他) | | | | | | | | | | | | |
| | 『久留米地域ITSモビリティ研究会』活動スタートに向けて ~第1回勉強会 | | | 第2回勉強会 | | | 第1回研究会 | | | 第2回研究会 | | | |
| | 次世代モビリティマッピング推進部会 | | | | | | | | | | | | |

データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組

令和7年度活動計画

令和7年度活動計画について

・活動計画案項目

- ① 九州アカデミーITSモビリティ研究会の継続と拡大
対象自治体:久留米市の次世代モビリティ事業化にむけた研究会・
国プロにチャレンジ、EMoBIAとの強力なパートナーシップ
- ② のるーと上熊本のグリスロモビリティ実証・実装事業に参入
自動運転化への展開取り組み
- ③ 福岡県連携事業(福岡モビリティショー2025企画提案推進)
- ④ 自動運転システム社会実装化の検討・交流会実施
- ⑤ 会員交流会(各社のソリューションとのコラボ推進)
・EMoBIAカオスマップの強化と取り組み展開
- ⑥ ITSジャパンとの連携事業強化
- ⑦ 重点行政地域
福岡県地区自治体(久留米市、柳川市、宗像市、他)

2023年度 活動実績

2024年3月25日開催

自動運転システム研究会

自動運転「レベル4」解禁
・社会実装プロジェクトの取り組み強化
・EV自動運転バスの社会実装へ

福岡モビリティショー
福岡県会場にて
EMoBIA展示ブース
2023年
12月23日～25日開催

2024年度 活動計画案

令和6年度活動計画について

活動計画案項目

- ① (継続)九州アカデミーITSモビリティ研究会の継続と拡大
・ライドシェア考察 ・自動運転必須機能研究 ・他 研究
- ② セミコン熊本地区へのCASE等提案活動
- ③ (継続)昨年に引き続き九州MaaSマッチング交流会を実施
- ④ (継続)次世代モビリティ推進を担う人材を獲得、認定校への活動
- ⑤ (継続)ITS技術(EV,自動運転、CASE、MaaS)の推進
・福岡県自動運転システム研究会セミナー開催支援
- ⑥ (継続)福岡モビリティショー2025企画提案推進
・福岡県展示場 EMoBIA展示ブース検討
- ⑦ (継続)会員交流会(各社のソリューションとのコラボ推進)
・EMoBIA次世代モビリティカオスマップ
- ⑧ 異業種団体との交流会&勉強会(ZETAアライアンス、他)
- ⑨ 国土交通省、R6年地域交通共創モデル実証事業提案
- ⑩ ITSシンポジウム2024 in 熊本参画(実行委員長:溝上先生)

0. CASEトレンドとは？

● コネクティッド、電動化、自動運転、シェアリングなどの産業構造を大きく変える可能性のある変化。いわゆるCASE(コンバインド)と呼ばれる。自動運転車には事業モデルの革新が求められる。



『久留米地域ITSモビリティ研究会』活動スタートに向けて ～第1回勉強会開催状況～ 2025年6月4日開催

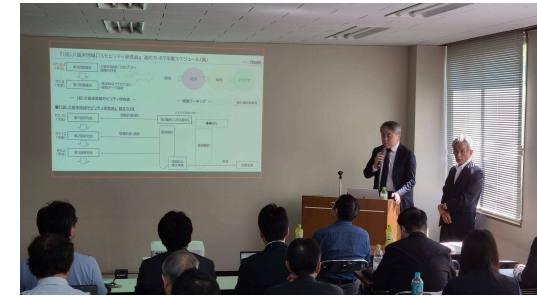
参加者:勉強会58名、交流懇親会48名



司会 オープニング



浦代表理事 開催趣旨共有



ケーシーエス宇野社長 進め方スケジュール



牧野久留米市副市長 挨拶

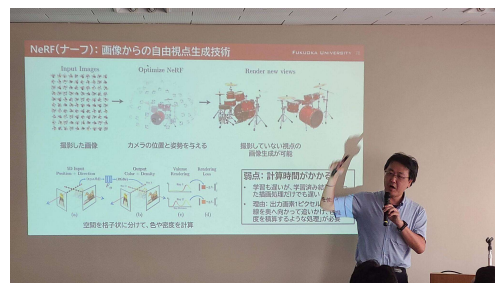


牧野副市長 久留米市の課題情報共有



牧野副市長 勉強会への期待

③久留米市におけるMaaS等の展開を見据えた事例や最先端技術の発表



1)福岡大学 小野准教授 交通・地域・文化の可能性を探る実世界の画像処理とAI技術

2)株式会社 ケー・シー・エス 石田氏 地域の課題に資するMaaS等の事例紹介



④ 意見交換、フリーディスカッション (参加者全員)

3)RYDE 株式会社 木下氏 デジタルチケットアプリ「RYDE PASS」導入によるデータ活用



交流・懇親会 45名



牧野副市長 乾杯ご挨拶 これからが本番！



久留米工業大学副学長、久留米大学名誉教授、コンサル会長ご意見

2025年度 第2回「久留米地域ITSモビリティ研究会」立ち上げに向けた勉強会



司会 オープニング



浦代表理事 開催趣旨共有



牧野久留米市副市長 挨拶



牧野副市長 勉強会への期待

2025年度 第2回「久留米地域ITSモビリティ研究会」立ち上げに向けた勉強会

話題提供1: 久留米工業大学 東 大輔 教授 内閣府SIPプロジェクトの取り組みについて



2025年度 第2回「久留米地域ITSモビリティ研究会」立ち上げに向けた勉強会

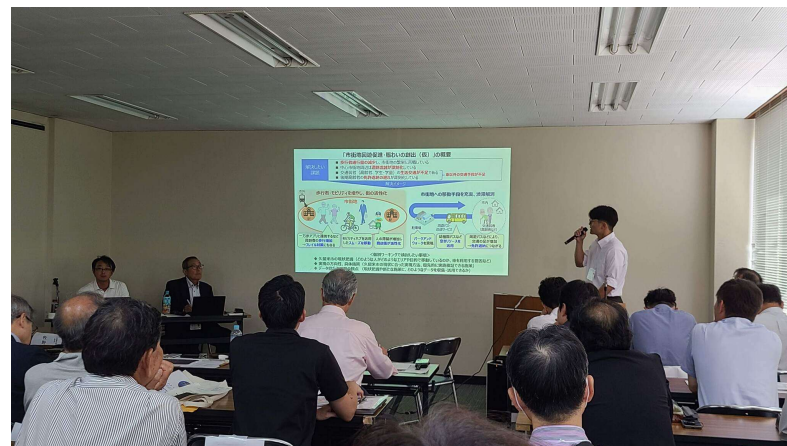
話題提供2：株式会社アイナックシステム 取締役 高田樹彦 AIイチゴ自動収穫ロボットの開発と導入について



2025年度 第2回「久留米地域ITSモビリティ研究会」立ち上げに向けた勉強会



株式会社RYODEN: 仮想空間を活用したモビリティサービスの可視化



沖電気株式会社: 市街地回遊促進・賑わいの創出



久留米大学: 歩いて楽しむ久留米中心街

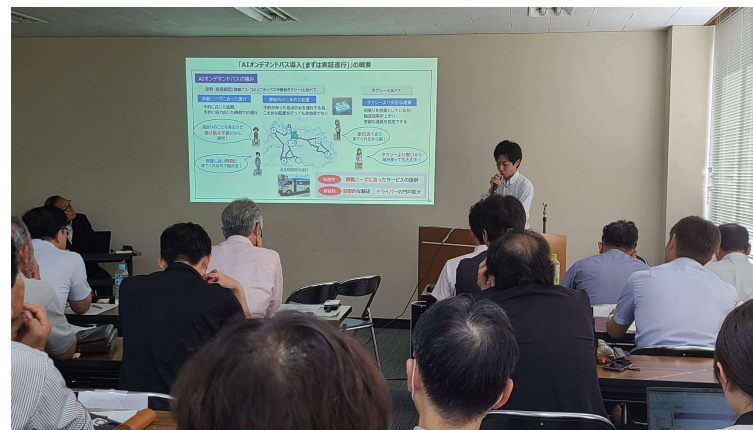


株式会社NTTデータ・SONPO: 交通事故防止に向けたビジネスモデル検討

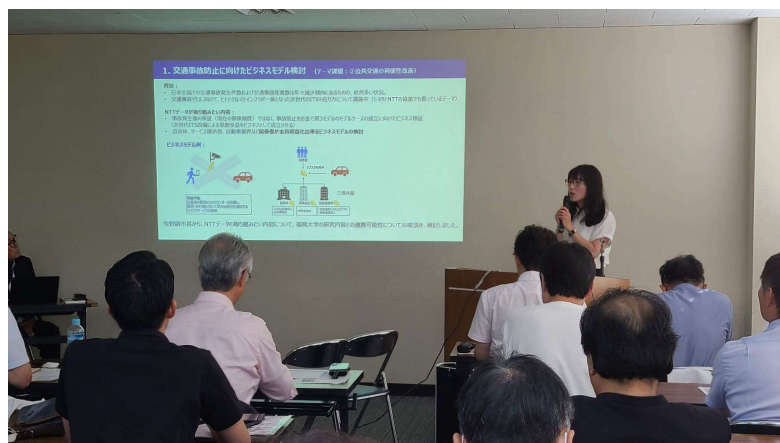
2025年度 第2回「久留米地域ITSモビリティ研究会」立ち上げに向けた勉強会



RYDE株式会社：スマートフォンアプリによるデジタルチケットを活用した公共交通の利便性



ネクストモビリティ株式会社：AIオンデマンドバス導入(まずは実証運行)



株式会社NTTデータ：交通事故防止に向けたビジネスモデル検討



一般社団法人九州地域づくり協会：耳納北麓

2025年度 第2回「久留米地域ITSモビリティ研究会」立ち上げに向けた勉強会



株式会社ミックウェアモビリティ：久留米/県南地域の
イマ・過去・歴史・ミライを発信



株式会社マーブル：位置情報連動型観光アプリによる地域
回遊促進のご提案



株式会社ケー・シー・エス：ドローンを活用した来訪動機づけコン
テンツと観光二次交通の提供

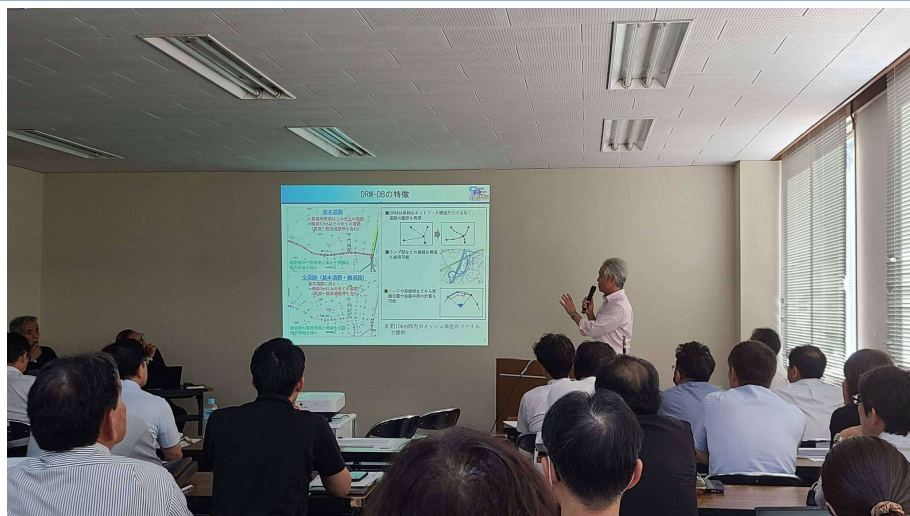
2025年度 第2回「久留米地域ITSモビリティ研究会」立ち上げに向けた勉強会



講評:日本デジタル道路地図協会(DRM) 理事長 増田博行様



研究会に期待すること :久留米市 副市長 牧野浩志様



最新のDRMについて:日本デジタル道路地図協会(DRM) 理事長 増田博行様



閉会挨拶:久留米市 副市長 牧野浩志様

2025年度 第2回「久留米地域ITSモビリティ研究会」立ち上げに向けた勉強会



交流会・懇親会 挨拶：代表理事 浦正勝（50名参加）



乾杯 挨拶：久留米市 副市長 牧野浩志様

今後は実装のための
仕組みづくりを！乾杯！



中締 挨拶：日本デジタル道路地図協会 理事長 増田博行様



「第一回久留米地域ITSモビリティ研究会」：開催風景



参加人数：71名、参加企業：37社



「第一回久留米地域ITSモビリティ研究会」：挨拶



研究会への期待と方針・スケジュール(牧野久留米市副市長)



【主なトピック】

- **久留米市の概況**
 - ・ 30万人都市だが人口減少と高齢化が問題
- **歩行者通行量の減少**
 - ・ 郊外の繁栄と中心市街地の苦戦、市街地の空洞化が顕著
- **交通まちづくりの方向**
 - ・ 拠点性／生活環境／交通ネットワークの良さを活用
 - ・ 新幹線駅を含めた25駅、高速道路ネットワークのへそ
 - ・ 西鉄久留米駅周辺整備構想（バスタプロジェクト含む）
- **九州MaaSへの期待**
 - ・ MaaSリクワイアメントが重要
 - ・ SUNQパスはMaaSの先駆け
- **久留米地域ITSモビリティ研究会への期待**
 - ・ 本研究会がコミュニティハブになるよう期待
 - ・ 産学官連携したビジネスモデルを構築が期待
 - ・ 久留米地域でのソリューションは全国に通じる

「第一回久留米地域ITSモビリティ研究会」：話題提供(4社)



(熊本学園大学 教授 溝上章志様)「先進的な熊本の公共交通政策と移動支援策」



【主なトピック】

- **公共交通の再デザイン**
 - バス事業の運行体制の再編
 - バス路線の再編
 - 路線の階層化
 - 定時路線型コミュニティバス
 - デマンド型乗合タクシー
- **熊本市の目指す姿**
 - 車1割削減
 - 渋滞半減
 - 公共交通2倍

(NTTドコモビジネス(株) 営業課長 安藤隆祐様)「観光DXについて」



【主なトピック】

- **観光庁に対する取組紹介**
 - 観光DX推進事業
 - 宿泊業の人材不足対策事業
 - オーバーツーリズムの未然防止・抑制による観光推進事業
 - 生成AIの効果的な調査事業
- **地域での取組紹介**
 - DMP
 - 観光コンシェルジュ
 - AIオンデマンド交通
 - AIカメラを活用した需要予測

(株ゼンリン 本部長 磯尚樹様)「モビリティ領域における取組み」



【主なトピック】

- **空間情報ソリューション**
 - 現実世界のあらゆる情報を収集・整備・編集した情報流通基盤からのサービス提供事業
- **モビリティ領域での取組**
 - インフラ維持のDX
 - 路車協調インフラ
 - 地域交通の転換
 - 防災・災害支援
 - 先端技術の適用

(崇城大学 教授 西嶋仁浩様)「EVによる交通難民対策や防災、および自走ドローンの無人化」



【主なトピック】

- **エネルギーエレクトロニクス**
 - 太陽光発電ガレージによるキックボードワイヤレス充電
 - バッテリー交換ステーション
- **実証試験の紹介**
 - 買い物難民対策（移動スーパーとくし丸）
 - コンビニEVによる移動販売
 - ドローンの無人運用

「第一回久留米地域ITSモビリティ研究会」：企画提案(2件)



- 久留米地域の課題に対して「①交通情報の可視化」「②公共交通の利便性向上」「③観光周遊の利便性改善」をテーマ・観点に新規に企画提案を2件、最新技術の共有やソリューションアイデアを発表頂いた

(株)AMANE

交通データ分析・自動運転導入検討

「①交通情報の可視化」
「②公共交通の利便性向上」



- 交通データの可視化:
WEBGIS+データ処理ツールを活用し、久留米市の交通ネットワーク情報を可視化。その上で、交通課題がある箇所を抽出する。また、自治体職員向けの交通データ分析セミナーも実施する。
- 自動運転導入検討:
中心市街地への自動運転バスの導入可能性調査。道路環境・交通環境・運行環境の調査による技術面で導入可能性や、需要調査による事業面での可能性を調査する。上記交通情報の可視化も活用。

(株)WillSmart

久留米市地域交通データプラットフォーム構築
(データでつなぐ安心・便利な地域交通)

「①交通情報の可視化」



- ① バスや鉄道会社、タクシーなど様々なモビリティのデータを収集、蓄積、統合、可視化する基盤を構築。
 - ② 不足するデータがあればAIやIoTを活用することでさらに高精度な分析を実施。
 - ③ 分析した結果を元に必要に応じて新しい交通モードを導入。効果検証。
- 上記①②③の循環を実現することで地域公共交通計画作成や新しい移動手段の導入、既存交通サービスの維持と改善、カーボンニュートラルの推進などを実現したい。

「第一回久留米地域ITSモビリティ研究会」：事業提案(5社)



■ 久留米地域の課題に対して「①交通情報の可視化」「②公共交通の利便性向上」「③観光周遊の利便性改善」をテーマ・観点に具体的な事業提案を5件、最新技術の共有やソリューションアイデアを発表頂いた

| 沖電気工業(株) 損害保険ジャパン(株) | 久留米大学 | (株)NTTデータ | RYDE(株) | (株)ケー・シー・エス (株)マープル (一社)日本ウォーキング協会 (一社)九州地域づくり協会 |
|--|---|---|--|--|
| <p>①交通情報の可視化 ②公共交通の利便性向上</p> <p>市街地回遊促進・賑わいの創出</p> | <p>②公共交通の利便性向上</p> <p>歩いて楽しむ久留米中心街</p> | <p>②公共交通の利便性向上</p> <p>交通事故防止に向けたビジネスモデル検討</p> | <p>②公共交通の利便性向上</p> <p>RYDE PASSを活用した久留米MaaS3年計画</p> | <p>③観光周遊の利便性向上</p> <p>耳納北麓への来訪需要喚起による久留米市東部エリアの公共交通の持続性確保</p> |
|  |  |  |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> 市街地の歩行者や通行量を増やし街の活性化に貢献するために、モビリティの充実や、市街地にアクセスするための手段など、地域の課題解決や街の活性化、住みやすい街づくりに向けた検討を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 中心街の魅力アップを図るために、中心街への車の乗り入れを規制 心街をハウステンボスのようにする。 トランジットモールと交通渋滞の緩和のために、トラム（路面電車）やバスの自動運転を導入する 観光振興とモビリティ | <ul style="list-style-type: none"> 日本全国での交通事故発生件数および交通事故死者数は年々減少傾向にあるものの、依然多い状況であるため、事故発生後の保証（現在の保険制度）ではなく、事故防止をお金で買うモデルのモデルケースの成立に向けたビジネス検証を行いたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 久留米市の生活拠点から中心拠点への公共交通でのアクセスをより快適にし、免許返納者等へ公共交通の利用を推進することで、公共交通を維持し、渋滞を抑制する。 観光客にも交通を利用できるよう動線を整備することを提案する | <ul style="list-style-type: none"> 耳納北麓エリアにおける持続可能な観光の実現に向け、需要の喚起+公共交通によるシームレスな移動サービスの提供。 もって、観光需要の拡大、公共交通の持続性、道路混雑の抑制につなげる。 |

「第二回久留米地域ITSモビリティ研究会」：開催風景

研究会の趣旨・共有について： 浦 正勝代表理事

参加人数：66名、参加企業：32社



久留米地域ITSモビリティ研究会への期待と方針：牧野久留米市副市長



【本研究会をイノベーションの場と期待について】

- シュンペーターによるイノベーションの定義
実用化を阻む「3つの壁（魔の川、死の谷、ダーウィンの海）」をご紹介して頂いた。
- イノベーションのジレンマ
具体的な事例（EV、ネットコマース等）をご紹介して頂いた。
- イノベーションに必要なもの
産学官が集うコミュニティがあること。
地域のコミュニティ内でノウハウや信頼できる情報を共有し、互いに学び合う（ピアラーニング）環境がイノベーションの地の条件となる。
- 久留米市におけるフィールドの提供
本研究会のテーマとなっている①交通情報の可視化、②公共交通の利便性改善、③観光周遊の利便性改善に加えて農業へのITS技術活用など、地域の具体的な課題解決のために自治体がフィールドを用意し、産学官で連携する取り組みを期待

「第二回久留米地域ITSモビリティ研究会」：事例紹介・話題提供



(一般財団法人日本デジタル道路地図協会 増田 博行様)
「DRMの最新動向について」



【事例紹介】

1. 研究助成
 - ・ 令和7年度（2025年度）研究助成テーマ一覧
 - ・ 令和8年度研究助成募集について
2. 道路行政との連携
 - ・ 整備・更新情報収集のため
 - ・ 様々な道路属性のデータベース化
 - ・ 管理者コードの改善、特車通行許可システム
 - ・ 官民連携促進の役割（ゾーン30プラス、2027国際園芸博覧会）
3. DRM-DB活用事例
 - ・ 長野県データプラットフォーム
 - ・ 民間プローブデータ
 - ・ 商圏分析
 - ・ ETC2.0プローブデータのオープン化
4. DRM-PFの公開について
 - ・ DRM-PFの公開（特徴及び公開時期・利用料金）

(一般財団法人日本自動車研究所 谷川 浩様)
「自動運転に係る安全性評価の課題と取組み動向について」



【話題提供1】

■ 自動運転実用化に係る取組み動向

- 海外では、無人のロボタクシーが商業運行している状況
- 国内では、各地で実証が広がっているように見えるが、短期間のデモ的な走行も多い現状
- 技術的には、Lidar+シナリオベース→ステレオカメラ+E2EのAI活用で開発競争激化
- この他、倫理の問題やコストの問題など課題が多く顕著化、まだ見通しが立っていない状況
- 自動運転の安全設計・評価はプロジェクト全体での推進が必要

(ダイハツ工業株式会社吉元 光児様)
「小型モビリティによる地域移動支援の将来像-暮らしを支える小さなクルマの視点から-」



【話題提供2】

■ 自動運転小型モビリティの紹介

- 低速モビリティの自動送迎で免許返納後も自由な移動を提供
- 免許返納後の移動手段として、ラストワンマイルを走行する自動送迎システムを開発
- 暮らしを支える小さなクルマの視点からモビリティライフ周辺の新技術・サービスの価値検証、原理試作、実証実験を実施中

テーマ①

「交通情報の可視化」

- 交通事故削減に向けたビジネスモデルの検討
- 事故発生状況の分析・見える化
- ETC2.0データを活用したピンポイント渋滞対策
- ドラレコデータの活用等

ファシリテーター：NTTデータ



テーマ②

「公共交通の利便性改善」

- 宮ノ陣地区におけるモビリティハブ実証
- 交通データ分析による現状把握
- 交通結節点、賑わい拠点
- ラストワンマイルの検討
- AIデマンド、ライドシェア
- 地域デジタルチケット等

ファシリテーター：沖電気工業



テーマ③

「観光周遊の利便性改善」

- 地域への来訪需要創出
- 観光ロゲイニング（まち歩きイベント）
- 位置情報連動型観光アプリ
- 観光料金込み込みMaaS
- 外国人旅行者への観光周遊改善
- デジタルスタンプラリー/AR音声ガイド等

ファシリテーター：マーブル

